
告白

elephantom

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

告白

【Nコード】

N1540Y

【作者名】

elephantom

【あらすじ】

この感情に出会ったことはありませんか？

空っぽだと思っていました。

私には何も無く、空虚でしかないと感じていました。

皮膚の下は空洞で、底には穴があいている。

何もなく、何も残らない。

そんな存在だと気付いていました。

あの人に出会いました。

私の空洞を埋め、何かを得ることができるとはと恋心以上に心はずみました。

しかし、あの人と過ごす日々には怒りと恐怖が溢れていました。

私にはなぜだかそれがとてもよく理解できました。

あの人赤く鋭い眼光は押えきれない怒り。

あの人強く硬い拳が振り下ろされるたびに湧き上がる痛みと気持ちちは恐怖そのもの。

私はあの人と繋がっていると感じるようになりました。

私の恐怖があの人に伝わり、あの人怒りは増殖する。

あの人怒りが私に伝わり、私の恐怖も増殖する。

それはまるでシーソーのよう。

そして表と裏のような関係。

靴の音であの人だとわかるようになり、あの人放つ言葉は全て真実。

あの人言葉こそ真理だと疑わなくなりました。

戸惑いや迷いがなくなり、私はとても生きやすくなりました。

ですが、この関係では何も生み出さないことに気付きました。ただそこにあるものとしてあり続けることしか出来ないのです。

カラのまま転がり続ける様は空き缶のようだと自嘲的な笑いがこみ上げました。

ありのままを受け容れてきた私でした。

考えはなく、水の如く流れていました。

そんな私がこのことに気付いたなら、何かが変わるかもしれないと思うようになりました。

それからあの人の元から離れることだけを考えるようになりました。

あの人の元を去るのはとても大変でした。

生半可な行動ではすぐに引き戻されてしまう。

私の心も揺らいでしまう。

あの人が出かけた後、とても勢いをつけて家を飛び出したことは今でも勇気ある行動であったと私に力を与えてくれます。

そうして、あの人から逃れられた私ならばなににでもなれるような気持ちになりました。

ですが、迷い、葛藤する日々をまた突きつけられたことにはうんざりしました。

絶対的な力は私にとって道しるべ。

迷いも葛藤もなく、ただ言われるがままに過ごすことは楽でした。

あの人の元を去った今、立ち止まることは出来ないのです

自分自身にひとつの真実を与えることにしました。

空虚でも、底に穴があいているわけでもない。

その虚無感に浸りたいだけなのだ。

自らがそのような虚構に甘んじていたかったのだと。

そんな中で、あなたに出会いました。

私の言葉を信じ、励ましまじりの叱責をくれました。

愛や喜びというものも絶えず与えてもらっていたかと思います。

ですが、それらは微かなもので、私の空洞では落ちていくばかり。正確には微かなものなのかも知らないのですが、結果として私には何も残らないので微かであるのだと思っています。

私はあなたに絶えず嘘をついてきました。

あなたという時には太陽のように明るく燃え続け、時に気を落とすとしても夜の星のように光を絶やさずに居ました。私には星粒ひとつの輝きすらありはしないのに。

私の嘘を信じているあなたの言葉では何も感じる事が出来ません。あなたはあの人とは違う力強さで私を包んでくれていたことはわかっていました。

そして、あなたの言葉をきく度に、私は空っぽなのだと思います。知らされました。

あなたと過ごした日々は

私がどれほど中身の無いものなのかを知らしめていました。

あなたには理解できないでしょう。

理解出きるはありますがありません。

あなたの側で笑う私のことを愛しているといいましたね。

あなたの側でしか存在しない私を愛していると。

清らかな教会であなたと誓い合った今日、

私の中で存在し続ける感情が生まれました。

空っぽだった私が抱き続けるもの。

私にとってあなたは特別な人になりました。

私はあなたを愛していません。

(後書き)

喜怒哀楽にぜひ葛藤を仲間に入れてやってほしい。
語呂は悪くなるけど・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1540y/>

告白

2011年11月2日20時06分発行